

- 本山・各組でキッズサンガ□1
- 阿弥陀さまと私□2
- 新・祖蹟点描□3
- 青色青光□4
- ブロック門信徒総研修会□6
- キッズサンガ写真特集□8
- 戦国期の鷺森御坊考える□9
- 響流十方□10
- つれもて聴こら□12



2015年(平成27年)
10月1日
第106号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>



楽しかった夏の思い出
本山・各組でキッズサンガ

和歌山西組

児童念仏奉仕団



4、8面に関連記事

阿弥陀さま

ハウツー仏事と私

⑧ 灯明

お仏壇の荘厳(お飾り)の基本である「香・華・灯」のうち、今回は最後の「灯」、つまり「灯明」「おひかり」についてお話しします。

灯明とは、お仏壇にともす灯り、灯し火のことです。浄土真宗のご本尊である阿弥陀如来さまは、無量光(限らない光)の仏さま

ですので、お仏壇に灯した光によって、阿弥陀さまの世の中の闇を照らし、私たちの煩惱の闇を破ってくださる光明のはたらきを味わわせていただきます。

親鸞聖人は阿弥陀さまの光明をたたえられて、

「智慧の光明はかりなし有量の諸相ごとごとく光暎かぶらぬものはなし真実明に帰命せよ」と、『浄土和讃』にうたっておられます。正信心仏偈をお勤めするときに六首引として引く和讃ですので、おなじみですね。



輪灯とろうそくに灯りをともすとお仏壇はいっそう温かい雰囲気

ら有限の世界に生きる私たちは、その光明のはたらきを頂かないものはない。真実の智慧で照らして下さる阿弥陀さまに帰命せよ(まかせよ)、との仰せです。

阿弥陀さまは、悩みや苦しみに沈み、さまざまに煩惱に振り回されている私たちを救おうと、

輪灯がなく、釣の灯籠とろうそくだけで、しかも、ろうそくも電気を使うお仏壇が増えています。これ

ラジオ放送番組
みほとけとともに
 - 西本願寺の時間 -

◆ 毎週土曜日 午前5時50分から
 - 和歌山放送 (WBS) -

和歌山・串本	1431kHz
田辺・すさみ	1233kHz
橋本・高野山	1485kHz
新宮・御坊	1557kHz

も時代の流れかもしれないませんが、少し寂しいことですが、電気照明があまりなかつ

ます。点燭しないときは、朱塗りの木製ろうそくである「木ろう」を立てておくのが正式です。

ろうそくには、和ろうそくと洋ろうそくがあります。が、普段使われる物は、安価で扱いやすい洋ろうそくでかまいません。

なお、ろうそくの火を消すときは、口で吹き消すことはせず、専用のろうそく消しやうちわなどで消しましょう。

ちなみに、寺院で用いるろうそくには色の違いによって4種類あり、法要の種類によって使い分けが決められています。①白ろうは一般の法要。②朱ろうは報恩講、慶讃法要、七回忌以降の年回法要など。③金ろうは結婚式、慶讃法要。④銀ろうは葬儀、追悼法要。⑤三回忌までの年回法要。

仏さまの智慧の光とぬくもりに触れる

休むことなく智慧の光で照らして下さっています。その温かいおこころを、お仏壇に灯明を灯すことによつて、味わわせていただきますしよう。

た時代に、薄暗い仏間にろうそく、輪灯、金灯籠の灯りで照らされた、光り輝くお仏壇の荘厳さを懐かしく思うことです。阿弥陀如来の光明のお徳のはたらきを、

お仏壇では、ろうそくと輪灯の火が「灯明」にあたります。輪灯は浄土真宗に特徴的な仏具ですが、近年はお仏壇の小型化により、

いっそう感じるものでした。浄土真宗本願寺派の『法式規範』によると、ろうそくに火を点じて尊前を荘厳することを「点燭」とい

「智慧の光明はかりなし有量の諸相ごとごとく光暎かぶらぬものはなし真実明に帰命せよ」と、『浄土和讃』にうた

うは白ろうで代用することができますので、ご家庭でも参考にしてください。(松本教智・御同朋の社会をめぐす運動)和歌山教区委員長



手前(左)に力ピ方の輪灯、奥(右)に朱ろうそく(お寺での仏前の荘厳)

ろうそくには、和ろうそくと洋ろうそくがあります。が、普段使われる物は、安価で扱いやすい洋ろうそくでかまいません。

なお、ろうそくの火を消すときは、口で吹き消すことはせず、専用のろうそく消しやうちわなどで消しましょう。

ちなみに、寺院で用いるろうそくには色の違いによって4種類あり、法要の種類によって使い分けが決められています。①白ろうは一般の法要。②朱ろうは報恩講、慶讃法要、七回忌以降の年回法要など。③金ろうは結婚式、慶讃法要。④銀ろうは葬儀、追悼法要。⑤三回忌までの年回法要。

金ろうは朱ろうで、銀ろうは白ろうで代用することができますので、ご家庭でも参考にしてください。(松本教智・御同朋の社会をめぐす運動)和歌山教区委員長

新 祖蹟点描

8 比叡山 横川中堂

ばしばは南岳・天台の玄風を訪ひて、ひろく三観仏乘の理を達し、とこしなへに楞嚴横川の余流を湛へて、ふかく四教円融の義にあきらかなり」(『註釈版聖典』1043頁)

現代語訳すると、「それ以来、中国天台宗の祖である南岳大師慧思や天台大師智顛の深遠な教えをたずね、空・仮・中の三種の観法によつて、生きとし生けるすべてのものがさとりをひらくという理を会得し、首楞嚴院を中心とする比叡山横川に変わることもなく伝えられている教えをあふれんばかりに身に着けて、釈尊一代の教説を、藏・通・別・円の四教に分け、その一切が法華経にまどかに備わっているとする天台宗の教義に精通された」という。

つまり、法華経を根本とする天台宗の教えを学ばれ、奥深い理法を体得された様子が記されているのだが、

よ かわちゅうどう
比叡山 横川中堂

場所 滋賀県大津市坂本本町4220
電話077(578)0001代
交通 京都駅でJR湖西線に乗り換え13分、「比叡山坂本」駅下車、同駅前から江若バス・ケーブル坂本線で7分、「ケーブル坂本」駅下車、坂本ケーブルに乗り換え11分、「ケーブル延暦寺」駅下車、徒歩1時間30分。

ここで具体的に比叡山での消息を伺うヒントとなるのは、「楞嚴横川の余流を湛へて」という表現である。「楞嚴横川」とは、首楞嚴院(現在の横川中堂)を中心とする比叡山横川の地

ある慈円が、横川の檢校(寺務監督者)に補せられたとの『華頂要略』(青蓮院の寺誌)の記録。これにより、親鸞聖人は慈円の導きで、横川で僧としての生活を送られたとの見方ができるわけである。

待ちながら修行を続けるうちに心身は回復。それを機に法華経の書写を始め、書写したお経を納めるために一字を建立して首楞嚴院と名付けた。これが今回訪れた横川中堂のルーツ。

横川中堂は横川の本堂で、848年(嘉祥上)創建。首楞嚴院とも、観音菩薩をご本尊とすることから根本観音堂とも称される。

現在の堂宇は、昭和17年に落雷で焼失した淀君ゆかりの旧堂を模し、同46年に伝教大師最澄入滅千五百十年大遠忌を記念して再建されたもの。片側が崖に架け出した舞台造りとなっているのも旧堂の通り。

親鸞聖人、横川で習学か

親鸞聖人は比叡山において何を学び、いかなる行を修められたのか。

残念ながら、それを知るための直接的な手掛かりはわずかしかない。その少ない史料の一つは、すでに何度か引いている、親鸞聖人のひ孫覚如上人が聖人のご生涯を絵巻物にされた『本願寺聖人親鸞伝絵』である。

そこには、「親鸞聖人が慈円(慈鎮和尚)の坊へ赴き髪を剃り出家し、範宴と法名を賜ったとの記述に続き、次のように記されている。「それよりのかた、し

円仁開いた奥比叡の本堂



鮮やかな朱色の外観が美しい横川中堂

を指すと思われるが、余流とは支流の意味だから、横川の地へと分かれ流れ込んでいる教え(法流)を、親鸞聖人が存分に吸収してわが物とされた、と説める。

そして、この表現から、実際に親鸞聖人が横川の地で習学されていたとの推測も可能となる。その推測を後押しするのは、親鸞聖人の出家された年(1118)

1)の11月、出家の戒師で

では、横川とどのような場所なのか。そもそも比叡山は、東塔・西塔・横川という三地域(三塔)に分かれるが、横川は根本中堂(東塔)から北へ約4キロ行った、奥比叡と呼ばれるひとときわ山深い場所にある。

横川へは、東塔・西塔を回つてから徒歩で行くのも一興。その場合は、西塔の釈迦堂に向かって右手から山道へ入る。約1時間かかるが、山道はよく整備された横川にたどりの着いたときの有り難味は格別である。

【参考文献】武覚超『比叡山三塔諸堂沿革史』(叡山学院) (本紙編集部)

81人の子ども達が本山で清掃奉仕

教区少年連盟第43回児童念仏奉仕団

和歌山教区少年連盟は、
 8月5日から6日の2日、
 間、京都の本山本願寺で開
 催された児童念仏奉仕団に
 バス3台で、引率も含め1
 10人が参加。



広い御影堂を一生けんめい畳拭き

青色青光

児童念仏奉仕団は、「親鸞聖人のみ教えに学び、本願寺の清掃奉仕やレクリエーション等を通して本願寺に親しむとともに、次代を担う宗教的情操豊かな仏の子どもの育成に資する」とを目的として、毎年、子どもたちが夏休みの期間に1泊2日の日程で開催されている。和歌山教区少年連盟も毎年これに参加し、



記念の腕輪念珠づくり

今年で43回目を迎え、参加者の中には、お父さん、お母さんも子どもの頃に参加したという児童もいた。
 初日は開会式に引き続き、

全国各地から集まった250人の児童が、御影堂の外陣441畳の畳拭き。次に、本願寺各所を巡るクイズラリー「龍の子探検隊」では、金閣・銀閣と並ぶ京の三名閣に数えられる国宝飛雲閣や書院、唐門を探索。鴻の間壁に描かれている鳥の名前や、唐門に彫刻されている動物の名前など、境内各所に設けられた全部で12の問題を解きながら、本願寺と阿弥陀さまについて学んだ。
 2日目は、眠い目をこすりながら、朝6時からはじまるお晨朝に参拝し、みんなでお勤め。安穩殿では中央仏教学院生や龍大生のお

兄さんお姉さんたちの指導を受けて記念の腕輪念珠づくり。ご門主とのお面接で

一緒に記念撮影をしたあと、お言葉を頂戴した。
 帰り道に寄った大阪府池田市にある「インスタントラーメン発明記念館」では、マイカップヌードルファクトリーを体験。児童一人ひとりが、世界でひとつだけのオリジナルカップヌードルを作った。

驚森テレホン法話

073-422-0243

- こころの電話 (海南組西光寺) TEL(073) 487-2430
- ヤングこころの電話 (同上) TEL(073) 487-0404
- こころの電話 (御坊組専福寺) TEL(0738) 44-0874

は、緊張しながらも子どもは、緊張しながらも子どもの代表者が団体名を紹介し、

子どもたちは、この2日間を通して、新しい友だちをつくり、学びを深め、楽しい思い出をつくった。

教化団体が連携を図り、課題を共有することを目的として開かれた。

「次世代を担う人の育成を」

各種教化団体連絡協議会

7月30日、驚森別院会議室で「各種教化団体連絡協議会」が開催された。
 この会議は、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)教区委員会、門信徒教化部会の2015年度事業として、「次世代を担う人の育成」という教区重点プロジェクトの実践目標の達成に向け、各種

この日、仏婦、仏壯、総代会といった教区教化団体の委員長・理事長・副委員長・副理事長が一堂に会して、各団体の現況、課題をふまへ今年度の事業方針と行事内容を発表。「次世代を担う人の育成」が、どの団体にも共通した大きな課題であり、その克服に向けて教区内の各種団体が連携協力して取り組んでいくことをあらためて確認した。

青色青光

非戦・平和を願う心伝える

戦後70年 第22回平和を希う念仏者の集い

7月9日、鷺森別院本堂で平和を希う念仏者の集いが勤修され、教区内僧侶、門信徒300人が参拝した。

この集いは、1994年(平成6)7月8日、戦後50年の節目に、和歌山市民会館大ホールで「全戦没者



各組から代表者が出勤しお勤め

50年追悼法要」が勤修されたのが始まり。それ以降、和歌山教区では、和歌山市大空襲があった7月9日(1945年)に、この日を「平和の日」と位置づけ、いのちの尊厳を守る取り組みとして毎年開催。今回で22回目を迎えた。

各組から代表者が1人ずつ出勤して追悼法要が勤修され、続いて、東京仏教学院講師、アユス仏教国際協力ネットワーク理事の本多静芳さんが「まことの平和と真宗く世の中安穩なれ」と題して講演。仏さまのみ教えに照らされて自身自身の生き方を深く見つめるとき、自ずとお恥ずかしいなあとという慚愧の念で戦没者と向き合っていくとい

寺族青年連盟新役員就任

教区寺族青年連盟では、役員・委員の改選により、新たに次の方々が就任した。任期は2年(平成27年4月1日から平成29年3月31日

まで)。※敬称略
 ▼委員長 池長智裕(和歌山組善行寺) ▼副委員長 小川眞史(和歌山西組松専寺)、荻野龍裕(海南組浄

國寺) ▼会計 杉山龍法(和歌山北組永正寺) ▼会計監査 和田慈仁(和歌山組眞光寺)、廣田聡美(和歌山西組安楽寺) ▼委員 木戸正範(和歌山東組正願寺)、谷口寿博(加茂組安養寺)、藤範雅史(伊那組

大光寺)、北山覚(有田南組最勝寺)、佐々木紀彦(有田北組教念寺)、埜崎教信(日高組覺性寺)、北條裕志(紀南組妙道寺)、辻本真一朗(和歌山組西念寺)、佐々木祐行(和歌山組専養寺)

今、いかに浄土を伝えるか！

第3連区布教使研修会を開催

8月25日から26日の2日間、近畿6教区から100人を超



講義に熱心に聞き入る参加者

う思いが生まれる。怨親平等のみ教えは、戦争でなくなったすべての命の尊厳に目覚めさせる。そして人びとに、命の奪い合いをさせる戦争を再びしない、させ

ないという反戦非戦の決意へと促すのだと参拝者に語りかけた。

(本願寺派布教使、輔教、福岡教区早良組徳常寺住職)が講義。自己が信奉する宗教や信仰を他人に教え広めることが布教であるが、浄土真宗の伝道とは仏さまの力により、お念仏を喜ぶ姿が伝わっていくことであり、それが自信教人信だとして、毎年連区で開催されている。今年テーマを「自信教人信」「今、如何に浄土を伝えるか!」をサブテーマとして、紫藤常昭師

現代の社会問題や宗教事情に引き合い、布教使としてのよりよい伝道活動が展開できるかを考え、研さんを深めることを目的として、毎年連区で開催されている。今年テーマを「自信教人信」「今、如何に浄土を伝えるか!」をサブテーマとして、紫藤常昭師



第3ブロックの研修会は、御坊組(湯川逸紀組長)が担当して御坊市民文化会館小ホールで開催。

3会場 814人が「次世代の育成」学ぶ

和歌山教区門信徒総研修会「聞法の集い」

毎年恒例の和歌山教区の門信徒総研修会「聞法の集い」が9月5日、『結ぶ絆から、広がる縁へ』と題して、次世代を担う人の育成をテーマに開かれた。教区内のブロック別に3会場で行われた「集い」には、第1ブロック164人、第2ブロック350人、第3ブロック300人の、合わせて814人が参加。各講師のお話に学び、次世代育成の課題を共有した。

第1ブロックの研修会は、和歌山組(島和夫組長)が担当して鷺森別院本堂で。講師の野村康治師(仏婦総連盟講師、大阪教区瑞松寺住職)は、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現」と題し、宗教的情操教育の必要性を訴え



野村康治師

お寺をだれもが共に集える場所に



第2ブロックの研修会は、有田北組(立森秀芳組長)が担当して有田川町のきびドームで開かれた。

榮俊英師(浄土真宗本願寺派寺院活動支援部長、子ども・若者縁づくり推進室部長)は、テーマと同じ『結ぶ絆から、広がる縁へ』と題し、次世代を担う人の育成の題で、宗派において昨年度から推進されている「子ども・若者縁づくり」を中心に話した。

第2ブロック 加茂組、海南組、有賀組、有田南組、有田北組 会場 有田川町・きびドーム



榮俊英師

お寺なのだから、お寺は子どもも若者も集える場所であるべきです。さらに、お寺が、お互いを尊び合いながら、一緒に素晴らしい教えを聞くことができる場所になればと話し、『阿弥陀経』に説かれる、浄土に住む共命鳥という双頭の鳥の話を用いて、「共命鳥はお浄土に生まれる前、互いに自分が一番でありたいと願い、相手を

最後に「私たちは、親鸞聖人をはじめ多くの人を通して、お念仏との出会いを頂き、浄土という素晴らしい世界を知り、自分の進むべき道が知らされました。その喜びを、次の世代の方へ伝えていこうという『自信心』の実践が、子ども・若者縁づくりです」と締めくくった。

第3ブロックの研修会は、御坊組(湯川逸紀組長)が担当して御坊市民文化会館小ホールで開催。戸川教宏師(大阪教区勝圓寺衆徒大阪教区少年連盟前委員長)は、「阿弥陀さまはあたたかい」の講題

第3ブロック 日高組、御坊組、紀南組 会場 御坊市民文化会館小ホール



戸川教宏師

お寺でしか聞くことができない話とは、教えの3本柱である「他力本願」「悪人正機」「往生浄土」です。教化活動の場、仏法を伝える場とは、まず自分自身が「阿弥陀さまは有り難いな、お念仏は尊いな」と思わせていただく場だと思っています。

お念仏によって、この子の人生が変わっていく。阿弥陀さまが今の子を変えてくださっていると、常々思っています。

子どもにお念仏との出遇いの場を

で、ご自身の少年教化活動を紹介しながら次のように話した。私は子ども達に

お念仏の心を伝えていくと、20年間、少年教化活動に携わってきました。自坊では毎月1回、土曜日の9時30分から11時まで子

ではありません。勉強とは思わないでください」といふことと、「ここでしか聞けないような話をしてあげるといいことです。

そして私は、お念仏を伝えることは、その人の人生を変えていくことだと思っています。例えば、普段一緒に暮ら

するのは日本人だということも、世界的には有名な話。宗教がなくとも生きられると思っているのは日本人だけ。日本の常識は世界の非常識なのです。

宗教的情操教育が必要

第1ブロック 和歌山組、和歌山東組、和歌山西組、和歌山北組、海草組、伊那組 会場 鷺森別院本堂



教者が常駐してないのは日本だけ。ライフラインは電気・ガス・水道のことだと思ってるのは日本だけ。オリンピックの選手村には、お寺と教会とモスクがないと認められないが、一番お参りしな

浄土真宗の僧侶、門徒が入院するとき、すべての方がご本尊を枕元に置くことを実践されたら、日本は変わると思っています。

て、次のように講義。日本では病院が一番最初にできたのは、四天王寺の療病院。大阪大学病院は、本願寺津村別院の境内で始まった。朝晩、正信偈のお

三大宗教(仏教、キリスト教、イスラム教)はすべて死後肯定。それが今では、生きていく人は病院の表玄関から入り、死んだら裏玄関から出るという。「死ん

だらしまい」が公共の電波で流される。日本はいつからそんな国になったのか。義務教育のある国で、宗教的情操教育がないのは日本だけ。緩和ケア病棟に宗

病院で命を看取り合い、お浄土でまた会いたいとお念仏のなかで味わっていく世界を、私たちは忘れてしまったのかもしれない。神戸の震災のあと、仮設住宅でも手を合わせられる場所をという事で、「きく」「いちょう」という簡易式のお仏壇を、当時のご門主(現在の前門さま)が制定してくださった。

和歌山西組 7/12 86人 鷺森別院



子ども・若者ご縁づくり
フォト・ニュース Photo News



「子ども・若者ご縁づくり」とは、「青少年教化活動」そのもののことです。「キッズサンガ」をさらに展開すると共に、特に若者層（中学生・高校生・学生・社会人など）への働きかけを強めていこうとするものです。年齢や地域などそれぞれのおかれた状況を把握し、若者も手を合わせお念仏申すご縁を「つくり」、そのご縁を「つなぎ」、そして「深める」ことに取り組んでいきます。

日高組 8/22 74人 光専寺



有賀組

8/2

31人

円照寺



御坊組

8/19

320人

日高別院

このコーナーでは、各組・寺院で取り組まれているキッズサンガを紹介させていただきます。ぜひ写真、資料を和歌山教区教務所宛にご提供ください。
なお、紙面の都合上掲載できないこともございますので、あらかじめご了承ください。

中世鷺森寺内めぐり3氏講演

発掘調査踏まえ、戦国期の鷺森御坊を考える

今年1月、鷺森別院南側の城北小学校グラウンドの発掘調査で、幅16㍎、深さ3㍎に達する鷺森御坊の戦国時代の巨大な堀跡が発見されたことは記憶に新しい。発掘調査から何が見えてきたのか。歴史学、考古学、地理学の立場から中世の鷺森寺内の実態に迫ろうと、和歌山歴史地理研究会が8月1日、鷺森別院本堂で3氏による講演会を開き、発掘現場を見学した。

別院)の寺内の規模と実態に焦点が当てられた。

大阪歴史博物館研究主幹の松尾信裕さんは「寺内町の構造―御坊と町」と題し、近畿地方に残るさまざまな寺内町の構造を紹介。本願寺の変遷にも触れながら、山科、大坂、貝塚、天満、京都それぞれの本願



松尾信裕さん

寺の寺内町の規模と、鷺森御坊の寺内を比較した。「寺内町の規模を見ると、山科本願寺が格段に大きい。大坂本願寺は、大坂城の地下約10㍎に埋まっており未調査だが、大坂城公園ほどの広さだったのでは。造幣局のあたりに境内のあった天満本願寺の寺内町は大坂



西村歩さん

本願寺より広く、東西7町、南北5町(1町は約109㍎)。貝塚、京都も同規模。それに対し鷺森御坊は、慶長6年(1601)に免許地になったのが、東西106間、南北133間(2

08・8㍎×262㍎)で、かなり小さい。その免許地の地形図に堀、土塁、御堂を入れると、町人地が入る余地がないという印象」

和歌山市埋蔵文化財センターの西村歩さんは「鷺森御坊の戦国期堀跡と橋梁遺構」と題し、発掘調査によって得られた知見を紹介。「出土遺物は一番古くて16世紀の物であるため、文献上の鷺森御坊の移転年代と矛盾がない」



水田義一さん

か。特に後者は、1570年以降の石山合戦(大坂本願寺合戦)の動きを見据えての造営と考えられるため、堀もこのときに構築された可能性が高い」

「堀に架けられていた橋の橋脚が見つかったのは貴重な発見。橋が架かっていたのは、空襲に遭う前の鷺森御坊の裏門に通じる街路と同じ位置」

質疑応答で「戦国時代の鷺森御坊の周辺には町屋が密集していたのか」との問いに対しては、「調査区内では、堀以外に戦国時代末期に属する遺構はほとんど見つかっておらず、堀の外側は野原のような状態だったと推定される」と答えた。

「…結論を言えば、鷺森御坊に寺内町はなかった。町のない寺内だった」

興味深いお話の数々に、スライド映写される寺内町の構造の解説図、鷺森御坊の復元図、発掘現場の写真などの映像資料も相まって、内容豊富な講演会となった。

最後に、講演会を主催した和歌山歴史地理研究会の会長で和歌山大学名誉教授の水田義一さんが、「中世鷺森寺内の姿とかたち」と



解説図や写真を映写しながらの講演

「よみがえる中世鷺森寺」とは、鷺森御坊境内を中心に「と題された講演会には、66人が参加。中世鷺森寺内」とする堀に囲まれた領域を指すが、境内外側の若干の集落や堀の内側の土塁も含まれる。また「寺内町」といえば、主に浄土真宗の寺院の周りに、その寺院と宗教的につながりのある人々が集まってきた町の意味。3氏の講演では、中世末期の永禄6年(1563)に現在地に移転した鷺森御坊(現鷺森

「堀が構築されたのは、鷺森移転時の永禄6年、または、御堂と御主殿(門主の住居)が造営された天正2年(1574)ではない

か。特に後者は、1570年以降の石山合戦(大坂本願寺合戦)の動きを見据えての造営と考えられるため、堀もこのときに構築された可能性が高い」

最後に、講演会を主催した和歌山歴史地理研究会の会長で和歌山大学名誉教授の水田義一さんが、「中世鷺森寺内の姿とかたち」と

「…結論を言えば、鷺森御坊に寺内町はなかった。町のない寺内だった」

興味深いお話の数々に、スライド映写される寺内町の構造の解説図、鷺森御坊の復元図、発掘現場の写真などの映像資料も相まって、内容豊富な講演会となった。

郷流十方

10〜12月の催し

本山

- 10月15〜16日 龍谷会へ大谷本廟報恩講法要(大谷本廟)
- 10月中旬〜11月23日 献菊展(京都菊栄会協賛)(本願寺)
- 11月22〜23日 秋の法要(全国門徒総追悼法要)(本願寺)
- 12月20日 御煤払(本願寺)
- 12月31日 除夜会(本願寺)
- 10月2日 第3連区ビハーク連絡協議会(和歌山)
- 10月6日 連研のための研究会(鷺森別院)
- 10月7日 仏教婦人会連盟委員会(鷺森別院)
- 10月8日 広報伝道部会(鷺森別院)
- 10月9日 寺族女性会委員(鷺森別院)
- 10月19日 仏教壮年会連盟理事会(日高別院)
- 10月20日 門徒総代会委員会(鷺森別院)
- 10月22日 近畿地区西本願寺仏教婦人会大会(滋賀教区)
- 11月5日 近畿同朋運動推進協議会寺族女性研修会(和歌山教区担当)
- 11月16日 仏教婦人会連盟清掃奉仕(鷺森別院)
- 11月26日 責任役員辞令・門徒総代登録証伝達式(鷺森別院)
- 11月27日 和歌山教区僧侶・寺族物故者追悼法要、本派

和歌山教区

教区内各組

- 社推協和歌山教区支部チャリティバザー(鷺森別院)
- 12月1日 歳末助け合い街頭募金(和歌山市内)
- 12月12日 少年連盟子ども報恩講(鷺森別院)
- 12月17日 布教団連続法座(鷺森別院)
- 11月21日 第6期連続研修会⑩(鷺森別院)
- 12月未定 組キッズサンガ(鷺森別院)
- 11月下旬 総代会研修会・和歌山東組
- 11月下旬 総代会研修会・和歌山西組
- 10月4日 組内会(万福寺)
- 11月1日 第16期連続研修会④(万福寺)
- 11月28日 組連研修了者鷺森別院報恩講参拝・懇親会(鷺森別院)
- 12月5日 組実践運動推進僧侶研修会・組内会(松専寺)
- 11月1日 第3回組内会(慶圓寺)
- 12月6日 第4会組内会・僧侶研修会(未定)
- 10月11日 第15期連続研修会④(浄満寺)
- 10月31日 総代会・壮年会合同研修旅行(津村別院)
- 11月15日 実践運動推進協議会(未定)
- 12月6日 僧侶研修会(了賢寺)
- 12月未定 海南組キッズサンガ(浄國寺)
- 10月17日 第6回任職・総代会親睦会(未定)
- 11月未定 実践運動推進協議会(報徳寺)
- 12月5日 組内会(報徳寺)
- 10月1日 伊那組寺族女性会秋の集い(ヒラティス)(かつらぎ町・極楽寺)
- 10月31日 子ども報恩講(西照寺)
- 11月未定 小委員会(橋本市・極楽寺)
- 12月未定 組内会(橋本市・極楽寺)
- 11月14日 僧侶研修会、組内会(善行寺)
- 11月8日 組キッズサンガ(西光寺)
- 12月23日 任職・寺族研修会(未定)
- 12月26日 みかん講(西明寺)
- 10月3日 第9期連続研修会⑤(信行寺)
- 10月6日 日高組寺族婦人会研修会(教専寺)
- 10月28日 日高組仏教婦人会研修会(日高別院)
- 12月1日 寺族婦人会研修会(善宗寺)
- 12月13日 真宗法座・第9期連続研修会⑥(即生寺)
- 12月23日 定例組内会(円行寺)
- 11月21日 第7期連続研修会⑩(日高別院)
- 12月5日 第7期連続研修会⑪(日高別院)
- 12月26日 組実践運動僧侶研修会(日高別院)
- 12月未定 組内会(橋本市・極楽寺)
- 11月5〜6日 総代会念仏奉仕団(本願寺)
- 11月22日 組実践運動推進協議会(金徳寺)
- 10月5〜6日 総代会念仏研修会(日高別院)
- 7月 藤川晶(伊那組明光寺)
- 8月 刀禰里美(伊那組浄願寺)
- 8月 長尾真紀(加茂組浄満寺)
- 梶信敬(紀南組正念寺)
- 6月 湯川淳子(御坊組安楽寺)
- 8月 松本良教(海南組了賢寺)

得度

教師

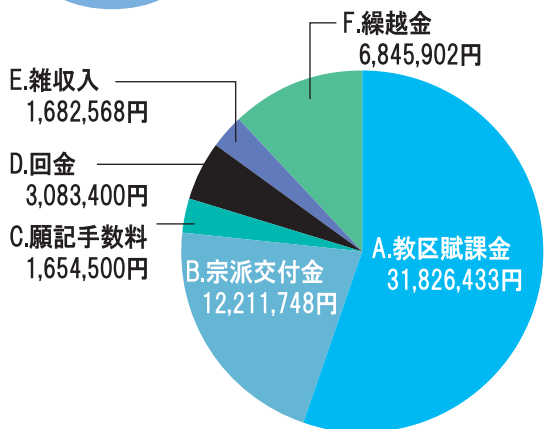
敬弔

- 6〜8月 荻野一雄(日高組浄明寺・前任職) 6月28日
- 玉置幸子(有田南組教覧寺・任職) 7月24日
- ご生前のご活躍ご尽力に感謝申し上げ、謹んで敬弔の意を表します。

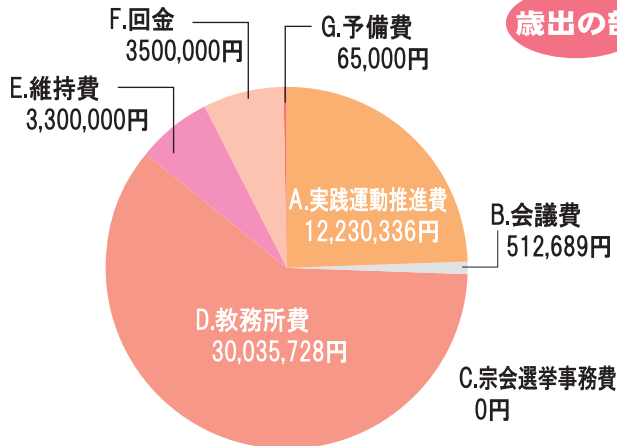
平成26年度和歌山教区一般会計歳計決算

(自平成26年4月1日～至平成27年3月31日)

歳入の部



歳出の部



款	費目	決算額
A	教区賦課金	31,826,433
B	宗派交付金	12,211,748
C	願記手数料	1,654,500
D	回金	3,083,400
E	雑収入	1,682,568
F	繰越金	6,845,902
	合計	57,304,551

款	費目	決算額
A	実践運動推進費	12,230,336
B	会議費	512,689
C	宗会選挙事務費	0
D	教務所費	30,035,728
E	維持費	3,300,000
F	回金	3,500,000
G	予備費	65,000
	合計	49,643,753

日高別院の催し

■常例法座

10月20日、午後1時30分から正信念仏偈(草譜)をお勤め。

■報恩講

12月4日から6日までの3日間、日高別院本堂で報恩講が左記の通り勤修される。布教使は、富岡隆弘師(たつの市揖保川町・即心寺)。

▽4日、午後1時30分

日高別院の催し

■常例法座

10月20日、午後1時30分から正信念仏偈(草譜)をお勤め。この日は、仏教壮年会参拝奨励日。

■報恩講

12月4日から6日までの3日間、日高別院本堂で報恩講が左記の通り勤修される。この日は、連研修了者参拝奨励日。

▽6日、午前7時から正

日高別院の催し

■除夜会

午後11時30分から本堂にて讃仏偈をお勤めし、梵鐘を撞く。引き続き、午前0時30分頃から元旦会を勤修。

(本願寺日高別院 御坊市御坊100 電話0738-2210518)

鷺森別院の催し

■報恩講

11月24日から28日までの5日間、鷺森別院の報恩講が勤修される。27日までは、毎座、午後1時30分からお勤め、2時頃から桑原浄昭師(呉市広中町・浄円寺)の法話を聴聞する。28日は、午前10時からお勤め、引き続き法話。27日は、正午から本堂で社会福祉推進協議会和歌山教区支部主催のチャリティバザーを開催。午後7時から御伝鈔(おんでんせう)拝読、引き続き、通夜布教が行わ

鷺森別院の催し

■常例法座

10月15日、蓮谷啓介師(大分市里・妙蓮寺)。10月16日、三澤泉師(和歌山市本渡・西専寺)。11月15日、16日、巨良樹師(泉北郡忠岡町・萬福寺)。12月15日、16日、水尾信隆師(岸和田市小松里町・満願寺)。毎座、午後1時30分からお勤め(15

鷺森別院の催し

■婦人会

10月8日、11月4日、12月3日に開催。午後1時30分からお勤め。引き続き、鷺森別院輪番の法話を聴く。

鷺森別院の催し

■子ども会

10月10日、午前10時から正午まで。らいはいのうたをお勤めし、その後、お話とレクリエーション。

引き続き、通夜布教が行われ、

引き続き、通夜布教が行われ、

(本願寺鷺森別院 和歌山市鷺森1番地 電話073-4221467)

つれもて 聴こら

「釈迦彌陀は慈悲の父母
種々に善巧方便し
われらが無上の信心を
發起せしめたまひけり」
〔註釈版聖典〕(91卷)

と、親鸞さまは『高僧和
讚』に詠われました。

この和讚の左訓には「釈
迦は父なり、彌陀は母なり
とたとへたまへり」とあり
ます。親鸞さまは、お釈迦
さまを父親、阿彌陀さまを
母親に例えられ、この私を

思い、何とかして仏と成ら
せようとして、さまざまな手立
てを用いて救いとしてくださ
る慈悲のおこころを喜ば
れたのです。

父母が子どもを思うよう
に、阿彌陀さまはいつでも
どこでも、私がどのような
状態にあるときも、寄り添

横田正純

いはたらきかけてくださり、
お釈迦さまは常に私を励ま
して下さっています。
私は3人兄妹の末っ子と
して生まれましたが、私が
生まれたときには兄はずで

に亡くなっていました。

私が結婚して最初の子ど
もも授かったとき、母はそ
の兄が亡くなったいきさつ
を、初めて私に話してくれ

ました。兄が2歳になる前
の、まだよちよち歩きだっ
たときのこと、母が洗濯を
しながら子守りをしていた
とき、目を離した隙に、す

でほしい、子守りのときは
子守りだけをしてほしいと
私に言うのです。幼い子ど
もは目を離せないから、子
どものことを第一に考えて



ぐ近くの溝に転落して亡く
なったという話でした。

母は続けて、せめてこの
子が5歳になるまでは、子
守りと家事を一緒にしない

ほしいと。そして、ふと手
を合わせ、お念仏しました。

自分のつらい経験をわが
子にはさせたくないという
願いから、それまで決して

私を一人子のように慈しむ仏さま

亡き子思う母の姿に教えられる

語ることもなかった話をし
てくれたのでしょう。故意
にはありませんが、自分
の不注意でわが子を先立た
せてしまったという悲しみ
と、消えること

くださっているのだと、お
念仏する母の姿が私に教え
てくれました。
「一子地」という言葉が
『大般涅槃経』というお経
に出てまいります。仏さま
は生きとし生けるすべての
いのちを、わが子のように
片時も目を離すことなく慈
しむ、まもり、お救いくだ
さるのだというおこころを
表された言葉です。

ない後悔の念を抱
いて、本當につら
い時間を過ごすこ
とが多かったのだ
はないかと思いま
す。そんな生活の
中で、お念仏が母
の心の支えとなっ
ていることを感じ
ました。

母にとって私たち3人の
兄妹は、すべて大切な子で
す。その大切な子が、阿弥
陀さまやお釈迦さまにとっ
ても、かけがえのない大切
な子であり、大切ないのち
であるということは、母に
は大変な喜びなのでしょう。
私が親となるご縁をいた
だくことで、母からメッ
セージをもらい、私自身、
親から願われ、仏さまとい
う親さまからもかけがえの
ないわが子として願われ、
まもられているのだと気付
かせていただきました。

だれもお念仏
によって導かれる
お浄土。そのお浄
土は、たとえこの
世で悲しい別れを
した者同士だった
としても、再び会
い、ともに仏さま
と成らせていただ
く「俱会一処」の
ご利益があります。

まさに阿彌陀さまとお釈
迦さまは、お念仏の声と
なって、母のいのちに父母
のごとく寄り添い、支えて

願ひから、それまで決して

(京都府八幡市・善照寺)
7月15日の鷲森別院常例
法座の法話から